

巻頭言  
Greeting

×

岸本 紘  
Hiroshi Kishimoto  
聖書宣教会 前理事長  
(川越聖書教会牧師)

Profile

1944年生まれ。聖書神学舎卒業後、和歌山、神戸、旭川の諸教会を経て、1986年から今日まで川越聖書教会牧師。2014年から2018年まで聖書宣教会理事長。



## 「十字架のことは」が旗印」1コリント 1:18~25

主の2019年、みなさまに主の臨在が豊かにありますように。

恥多く、愚かと見えた十字架が、神の御力の実現そのものであったとは、何という驚きでしょうか。神の力が弱さのうちに完全に現され、復活において贖いの勝利が示されたというのですから、これは歴史上、最も驚くべき、逆説に満ちた、人が到底考えつかないことでした。そして今、この救いを旗印とする、歴史を通じて続く長い旅団の、最後尾を進む私たちも、間違いなく冒険者の一員です。

先頃、聖書宣教会の図書館を覗いてみました。新たに完備された書庫の部屋は一段と充実し、聖書と教会に関わるあらゆる分野の書籍を網羅し、また代々にわたる聖徒たちの書が、これでもかと言わんばかりに集まっていて、明るくしかも深い森の中に行くような、格別の爽快感を味わいました。日々の課題に追われる在校生よりも、現場の牧師や教会員こそが(等しく課題をかかえつつ)ここに分け入って、これらの書物を(読めばもちろん)しばし眺めるだけでも、それは十分に恵みです。神学校は私たちすべての者のためにあるのだ、との思いが一層強くなりました。

こんにち福音的な立場の間でも、信仰の土台について多様な見解が交わされているようですが、瞬く間に過ぎ去るお互いであることを覚えるとともに、代々の聖徒たちがみことばにとらえられ魅了されて、主の贖いと主への敬虔を生きたことを知って、私たちも

謙虚に恵みのうちを歩みたいと願います。

一昨年と昨年、相次いで出版された『新改訳2017』と『共同訳』の聖書が、かつてなく互いに似通った文体になったことは喜ぶべきことですが、同時に微妙な違いも浮き彫りになっています。いずれも信仰の内容に深く関わることなので、暫くは議論が続いても、それによって救いの理解が再確認され、主に栄光を帰することになれば感謝です。そして今、各神学校の使命の大きさが一層強く問われているのだと思います。

私儀、今春3月末75歳をもって牧師引退を迎えるに当たり、過日、聖書宣教会理事長の職も退かせていただきました。側面から現場を見守るだけでしたが、赤坂校長をはじめとし、そこに熟練のスタッフと新進気鋭の教師たちが加わり、意欲的な教育と学び、信仰と祈りの養いが続けられているさまを垣間見て、大いに励まされ、また祈りの思いを深くしました。

聖書宣教会をお支えくださる諸教会のみなさまに心より感謝申し上げます。今後とも変わらず祈りに覚えていただきますよう、お願いいたします。主の祝福を祈りつつ。

### No.176 Topics

- p03 研修生の証し
- p04-05 卒業生の働きの中から
- p06 証し

赤坂 泉

Izumi Akasaka  
聖書宣教会 校長

「…自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕え合いなさい。」ガラテヤ 5:13

### 節目のとき

学舎のためにお祈りくださり、お支えくださる皆様を主に感謝しています。教会のわざとしての神学教育の働きが皆様の禱援で前進していることを、主にあって共に喜んでください。

この度、理事長が交替しました。岸本紘師が任期満了で退任し、鳥居完次師が新理事長となりました。岸本師のこれまでの奉仕に心から感謝し、鳥居師の新たな奉仕にも感謝しています。皆様にも、主への感謝と祈りを新たにさせていただきたくお知らせします。

教師会を中心に、理事会と、諸教派・諸団体から派遣していただく評議員会とに支えられ、監事に見守られて、教師・講師、職員一同が主に仕えています。定年を延長していただいていた久利師の最終的な定年、津村師の定年と担当科目数の漸減、と変化が続きます。続く世代の講師たちも加えられていますが、この面でも主の供給のためにどうぞお祈りください。

卒業式(3/18)では、竹本邦昭先生が説教してくださり、6名の兄弟たちを伝道者として送り出す予定です。

入会式(4/9)には、本科に4名、聖書科に1名の新入会生を迎えます。多様な背景から、主ご自身によって召し出され、主の教会に送り出されて学びと訓練を始める兄弟のためにお祈りください。詳細は通信次号をお待ちください。

### 私たちの務め

春の調整期間中に、学舎の務めの現在の課題

や今後の展望について検討する特別教師会を持ちます。‘いま’の研修生のための指導について考え、この時代に遣わされる伝道者の訓練について考えます。また人事を展望し、カリキュラムと組み合わせ、務めの責任を滞りなく果たせるように準備を進めます。諸教会との協働について、学舎の責務について検討します。教師一同のためにどうぞお祈りください。

昨年の夏期研修講座の講義録を『祈りの諸相 — 聖書に学ぶ』として出版しました。これも学舎の諸教会に対する責務、貢献を考えてのこと。祈りの理解が深まり、教会の祈りがさらに豊かにされる一助として用いられることを願っています。

来年度の夏期研修講座には Daniel Block 師を迎えます。「釈義から説教へ — 申命記から」として共に学びます。大勢の説教者に用いていただきたいと思います。教会音楽夏期講習会も幸いな学びと訓練の機会です。ご活用ください。

また、年来の祈りの課題であった「聖書学研究所」の働きを、2019年度秋から開始するよう準備を進めています。聖書の研究を深めることが、神のことばへの信頼をさらに確かにすることを、この働きを通して発信してまいりたいと思います。

### 愛をもって仕える

重ねて、諸教会との同労の交わりを感謝し、皆様の禱援に感謝いたします。変転する時代、混乱と困難の加速するかのような時代にあって、キリストにある自由を正しくわきまえて、主を愛し、主の民を愛して仕える歩みを重ねたいと願っています。

皆様の上にも、主の顧みと祝福がありますようにお祈りします。



## 主の共同体は愛なり

まむ じゅひょん

金 在賢

聖書神学舎本科2年

「主よ。母国語を忘れても構いません。たとえ一人にであっても、日本語で福音を伝えたいです。」6年前、日本に宣教師として派遣された私の涙の祈りです。私は、「日本語」と「神を知る知識」の乏しさを感じていました。母国に戻って学ぶ方法もありましたが、本当に日本で宣教するのなら、日本語で学び、考え、一人の日本人クリスチャンにならなければならないと思いました。それは、日本の痛みを自分の痛みとして抱き、神と日本の間でその痛みと向き合い、福音を体現し、伝えることを願ったからです。

完全に日本人になるのは不可能でしょう。しかし、一つキリストの体になるのは可能である。これは今まで働いた日本の教会から教えられたことです。国や言葉の壁があっても、どれほど歴史の傷があっても、神の十字架の愛がそれを可能にしてください。日本にも主を愛する人々がいる、全てを捨てて主に従っている兄弟姉妹たちがいる、主に従う時にそのような兄弟姉妹たちに出会い、主の栄光を共に賛美し、喜び合い、主にあって互いに愛する共同体になれる。そのことを知りました。

その愛によって学び舎に遣わされた私は、ここで主に従う兄弟姉妹たちとの愛の交わりが与えられていま

す。片言の日本語なのにいつも親切に話を聞いてくれることもその愛の証拠です。簡単なお知らせも聞き落とし、間違ってしまう自分を助けてくれる小さいイエスが沢山います。学びの課題の日本語チェックをお願いしても誰一人断りません。慣れない日本語の試験はなかなか点数が取れません。心が折れそうになり何度も学びを辞めることを考えました。そんな時、自分のノートを貸してくれた兄弟姉妹は数え切れません。車がなかった我が家のために自分の車を共有して下さった方々、困難な課題で図書館をさまよっている私をフォローしてくれた兄弟姉妹。私は多くの方々の姿を通して主イエス様に会いました。

この文章を書く今も長時間机に付きっきりです。普段もそうです。自然に家庭の営みは妻の分が多くなります。妻も娘も頑張っていることを思うと心が痛くなりますが、その妻を祈りによって支えてくださるのが婦人会です。外国人としての手続きや育児、出産は甘くありませんでした。涙する時に兄弟姉妹たちからいただいた祈りの涙。それが我が家の耐える力となりました。

日本を愛する神様によって日本と恋に落ちた私の祈りに、神様は愛の共同体を許されました。その中で日本語に少しずつ慣れ、見つけたイエス様のみ姿に少しずつ似させられていきます。…主の愛によって。

(写真: 著者 集合写真 後列右端)



## 桃栗三年柿八年、牧師としては十五年

近藤 愛哉

Yoshiya Kondo

盛岡聖書バプテスト教会 牧師

宣教会を卒業し、牧師として仕えた年数が15年(夫婦では14年)になるうとしています。たったの15年でありながら、凝縮された年月を振り返る時に眩暈を覚えます。8年前の東日本大震災前と後とで働きの領域が激変しました。牧会上の諸々の出来事の中で生じる重いうめきが余分な想いを取り払い、祈りが純化されて行くことを知りました。講壇で語る言葉はそのまま自らの在り方を鋭く問い、悔い改めと感謝を迫るものとなりました。人間関係や状況によって評価と批判が変動する渦の中に身を置き、もし人からの評価に軸足を置くならば、牧師としてのアイデンティティと働きは足元から崩れて行くであろうことを教えられました。目に見える「実」を追い求め、自分が神にとって有益か無益かという問いと共に神の前に立とうとすることの愚かさを思い知らされ、「祈りと、みことばの奉仕に専念」するというこの意味をますます考えさせられ続けています。振り返るならば、牧師として委ねられた教会における責任はありつつも、最も問われ続けて来たのは一人の信仰者として神の前にどう立つのかという点であったように思います。

昨年末の12月、礼拝の中で新たな教会開拓のための派遣式を行いました。不信仰ながら教会開拓など縁遠い計画のように思っていました。岩手県に遣わされて以来、目にして来たのは各地の教会の相次ぐ閉鎖、続けられていた働きの撤退、無牧となった諸教会、

教会内で進行する少子高齢化の現実でした。県内のクリスチャン人口を数えてみれば0.1%にも届かないであろう現状が浮かび上がります。開拓の場所は盛岡から東に約100キロ、2011年に発生した東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県沿岸地域に位置する宮古市です。特に震災後に多くの祈りと働きが積み重ねられて来たこの地に向けて、教会は新たな一歩を踏み出すことを決断しました。

派遣式と時をほぼ同じくして、盛岡聖書バプテスト教会を始めとする岩手県内の諸教会を開拓したアメリカ人宣教師が天に召され、その生涯と信仰を振り返る機会が与えられました。来日して宣教を開始した50年以上前の状況を想像するに、そこには今以上の厳しい現実が横たわっていたはずですが。しかしこの地に鋤を振り下ろし、種を蒔き、祈りを注ぎ続けたその信仰は、宣教師、前任牧師、私と牧会者が替われども、教会の中で静かに継承されていました。積まれて来た無数の祈りは確かに神の下に届けられ、その時が満ちるのを待っていたかのようです。

いつまでこの働きを続けることが許されるのでしょうか。弱く未熟であり続ける者を、ただ召しによって選り分け、忍耐をもってご自身のご計画の中に加えて下さる神の憐みと恵みとを、味わうことをこそ本懐として仕えて参りたいと考えています。



## ゆっくりと一歩ずつ

矢吹 博

Hiroshi Yabuki

フランクフルト日本語福音キリスト教会 牧師

当地に赴任して、間もなく4年になろうとしています。開拓伝道以来の教会に65歳での辞任を申し出た時に「できるだけ遠くへ…」との祈りをお聞きになった主は、私たちを9400キロ離れた地へと置いてくださいました。

教会は当地に駐在するキリスト者の家庭集會に端を発し、1989年に日本語での礼拝を開始して20周年になりました。教会に集うのは駐在で3-5年当地に滞在するキリスト者とその家族、国際結婚をして当地での生活を続ける方々、それに留学生です。駐在の方々の異動は激しく、私たちが赴任した時に一緒に礼拝していた方々はすべて帰国しました。ですから、現在教会を運営するのは永住者と呼ばれる方々です。

私たちの一週間は、日曜日午後3時からの礼拝から始まります。しばらく前から、自由教会が借りているビルをさらにお借りして、日曜日の礼拝と水曜日の祈禱会を持っています。この場所では、私たちが礼拝を終えて交わりを持っている夕方5時からパキスタンの教会の礼拝も持たれています。この建物の使用は今年の3月までになっていて、教会では1年半ほど前から新しい礼拝の場所のために祈り、さまざまな可能性を探ってきました。けれども、まだ決りません。この文章

を皆さんがお読みの頃には、新しい場所での礼拝がもたれていることと思います。

国際結婚をしている家族が日本語礼拝をともに持つことができるようにと、2年ほど前から、月一度の礼拝の宣教にはドイツ語の通訳がつくようになりました。また、毎週の礼拝でも、礼拝プログラムにはドイツ語を併記するようにしました。

フランクフルトにある日本語教会は一つだけ。私たちはこの地区にある自由教会の交わりに加えていただいています。自由教会とは国教会(ルター派の教会)を出て、礼拝、宣教、主にある交わりを持っている教会のことで、1月17日には、自由教会の「祈りの週」の一環として「東アジア祈禱会」が持たれました。当地にある中国語、韓国語、そして日本語教会が参加しました。キリストにある謝罪と和解として協働という取り組みがゆっくりとですが前に進んだように思えました。

私たちは、週に二度ドイツ語を学ぶ機会を持っています。とくに木曜日には、近くにある国教会が行っている「外国人のためのドイツ語」クラスに加えてもらっています。アフガニスタンやイランからの移民、難民の方々が主な参加者です。私たちはそこに加えていただいて、亀のような歩みですがドイツ語に触れています。ボランティアで講師をしている女性から、「あなたがたは家でもドイツ語で会話しなさい!」と言われる始末。このような環境に置かれている恵みを感謝して学び続けてまいります。

神田 唯志

Tadashi Kanda

武蔵台キリスト福音教会 牧師

聖書神学舎 講師

今から約10年前、私が神学校3年生の秋に、6歳下の弟が亡くなりました。前期末試験が始まる週の月曜日、弟が行方不明との連絡が実家からありました。聞けば日曜未明に山に出かけたまま帰宅せず、月曜にも職場に出勤していないとのことでした。彼は行き先を告げておらず、1週間にわたる捜索が始まることになりました。

火曜日終業後に車で1時間ほどの実家に帰り、メモやインターネットの検索履歴を手掛かりに行き先を絞り、水曜日授業が終わった午後、家族と新潟に行きました。警察に相談するも手掛かりは掴めず、夜になれば冷え込むようになった山の稜線を眺めつつ後ろ髪を引かれる思いで帰宅したことを思い出します。

木曜日には試験があり、一日動くことができませんでしたが、父が弟のETC使用履歴を問い合わせ、なんとか出入りしたインターチェンジと時間を教えてもらうことができました。しかし、そこから行ける山は無数にありました。

翌日の金曜は休日でしたが、弟が行きそうな山を全て回るのは難しいところ、宣教会のみなさんが協力を申し出て下さり、手分けして捜索を行うことができました。地元警察に問い合わせたときには、第一候補の登山口に放置車両はないとのことでしたが、父と私は疑いを持って、そこに向かいました。あっけなく車は見つかり、救助を要請することに。最寄りの宿のご主人は山岳救助隊の方で、外出中の町役場から急いで戻って下さいました。県警ヘリでの捜索が始まって1時間足らず、遭難者収容の知らせに一度は期待を寄せましたが、残念ながら心肺停止状態での発

見。それでも、短時間での発見は、不幸中の幸いであったようです。搬送された病院に車で向かい、検死と事情聴取、遺体とともにその晩の帰宅となりました。

翌日の土曜日は息子たちの幼稚園の運動会。ひとり車を運転しながら涙が溢れて止まらなかったのは自分でも意外なほどでした。週明けの月曜日に火葬、諸事情により私が司式する初めての葬儀となりました。

説教演習だけはリトリートでの公開実施となりましたが、試験やレポート提出に影響することなく、前期を終えることができました。

人生には不可解なことが起こること、その中でも確かな主の御手が働いていることを知らされる出来事でした。神はすべての時を支配され、その時々に必要な知恵も、助け手も、神が与えてくださったと思います。その前の年に取得した免許と車、夏に行った長野・新潟の長距離旅行も役に立つ経験となったのでした。

このような「濃い」経験をする人は稀かもしれませんが、しかし、すべての人の日常に主は働き、救いのみわざを進めておられるのは確かなことです。私は今日、何をなすべきか。「ボーっと生きてんじゃねーよ!」と言われるまでもなく、みことばは、「目を覚ましていなさい」と語り続けています。

「目を覚まし、死にかけている残りの者たちを力づけなさい。わたしは、あなたの行いがわたしの神の御前に完了したとは見ていない。」

黙示録 3:2

## みことばを歌う

飯島 千雍子  
Chigako Iijima  
聖書神学舎 教師

「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた<sup>1</sup>。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」

ヨハネ 1 章 14 節

昨年秋の怪我ではご心配ご迷惑をおかけしました。皆さまのお祈りを感謝します。

人とことばの出会いは人それぞれだと思います。多くの方は本との出会いを語ります。私も本に心を奪われた時代がありました。物語、小説に一時期没頭しました。私という人間をよく知っているかのようなことばに、喘いでいる己を自覚した時でした。しかし、そこから自力で這い出すことは出来ませんでした。

聖書を読み始めた時、そのことばはストレートでした。恐れを覚えながらも、「みことば」の正確な指摘に納得していました。「みことば」との出会いでした。聖書を「神のみことば」として聴き、読み、歌い、従うよう道が開かれました。

歌う学びでは、それぞれに文法（規則）を持った歌詞・旋律・リズム・響きのことばと向き合います。それが歌を歌う、学ぶということだと理解し始めたのは大学時代、信仰を与えられ間もない頃でした。書くにも語るにも語彙の少ない私に、ことばと向き合うことは苦痛だけでなく、喜びともなりました。

詩篇を歌う、みことばを歌うことについて考えています。旧約時代から歌われてきた詩篇。古文書にはキリスト信者が農作業の間も諳んじた詩篇を口ずさんでいるという記述があり、ヨーロッパではギムナジウムでラテン語による

詩篇の暗誦が義務付けられていました。宗教改革当時、カルヴァンの指導した教会では韻律化した詩篇をユニゾン、伴奏なしで賛美しました。その流れをくむ教会では、日本でも、現在に至るまで新しい訳・古い旋律の詩篇歌が歌われています。また、英国国教会の詩篇歌唱は四声・散文で歌われるなど、教会の歴史でも、各地、各時代に主の民、信仰の先達は詩篇を歌ってきました。詩篇は神の民にとって神の証し(教え)・賛美・告白・祈りでした。ヤコブが夢に見たはしごを思います。

「みことばを歌う」が、今、主から与えられている課題です。何故、みことばを歌う？ 聖書 - 神のみことば - に、その答えを聞くことができます。今、主の民 - 会衆 - が、みことばを歌う時ではないかと思います。

「キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むように<sup>2</sup>しなさい。」とあります。冒頭に掲げた「ことばは私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。」が教えるように、私たちの間に住んでくださった「この方」を、私たちは、ひとり一人、見、知っています。それはみことばに拠りました。今、日本に生きる主の民である私たちが、私たちの間に住まわれる主のみ前に、みことばを歌い、賛美・祈り・語り・告白を持って出る。私自身がそこに生きるように、と召されていることを教えられています。

\*1 黙示 7:15 幕屋を張られる 黙示 21:3 神の幕屋が人々とともにある。to spread a tent, dwell

\*2 コロサイ 3:16 dwell in

## ◎ 2019 年度 講座案内

### 2019 Courses and Schedule

2019 年度は次のようなプログラム、講座を予定しています。各講座の詳細は、別紙案内やウェブサイトをご覧ください。このほかに聴講制度があります(詳細は事務局まで)。

#### ◎ 聖書講座：金曜日10:30-12:10

聖書の基礎的な学びの機会を求めておられる方々のための講座です。

##### 前期15回：ルツ記、エステル記

講師：遠藤 芳子

(和泉福音教会 伝道師)

会場：ぶどうの樹キリスト教会(四ッ谷)

##### 後期15回：日本キリスト教史

講師：若井 和生

(飯能キリスト聖園教会 牧師)

#### ◎ 教会合唱講座：火曜日

聖歌隊員、聖歌隊指揮者、教会学校教師、会衆の方、賛美を学びたい方のための講座です。初めての方も歓迎いたします。

##### 前期9回、後期9回

・基礎講座

(個人・グループ指導) 17:00~18:30

・合唱講座 18:00~20:00

上記のいずれか一つ、または両方受講可能です。18:00~18:30は、みことばの時(共通)です。

講師：飯島 千雅子

(聖書宣教会 聖書神学舎教師)

馬場 義実(ときわ聖書教会 伝道師)

会場：浜田山キリスト教会

#### ◎ 第44回 夏期研修講座

##### 「釈義から説教へー申命記から」

期間：7月 8日(月)~ 10日(水)

会場：奥多摩福音の家

対象：牧会者とその配偶者

講師：ダニエル・I・ブロック師

(Wheaton College大学院教授)

#### ◎ 第35回 教会音楽夏期講習会

##### 「みことばと音楽」

期間：7月24日(水)~ 26日(金)

会場：聖書宣教会(宿泊は別紙案内参照)

対象：聖歌隊員、聖歌隊指導者、奏楽者、独唱者等、

礼拝や教会の諸集会で音楽の奉仕に携わって

いる方、および奉仕の準備をしたい方。牧会者・

教職者・信徒の方も参加できます。

講師：聖書宣教会教師・講師ほか

## ◎ 2019 年度 主要年間予定

### 2019 School Year

#### 2019

4月 9日(火) 入会式  
 4月12日(金) 前期授業開始  
 5月23日(木) 祈りの日  
 6月 8日(土) 教会音楽のひとつき  
 6月11日(火)~6月12日(水) 特別講義  
 6月29日(土)~7月 5日(金) 集中講義  
 7月 6日(土)~8月26日(月) 夏期調整期間  
 7月 8日(月)~7月10日(水) 夏期研修講座  
 7月中旬~ キャラバン伝道  
 7月24日(水)~7月26日(金) 教会音楽夏期講習会  
 8月29日(木) 前期授業再開  
 10月11日(金) 前期授業終了  
 10月12日(土)~10月23日(水) 秋期調整期間

10月15日(火)~10月16日(水) リトリート  
 10月24日(木) 後期授業開始  
 11月 2日(土) オープンデイ  
 11月21日(木) 祈りの日  
 11月30日(土) 賛美礼拝  
 12月 8日(日)~1月 6日(月) クリスマス調整期間

#### 2020

1月 7日(火) 後期授業再開  
 2月 3日(月) 入会試験  
 2月11日(火) 信教の自由を守る日  
 3月11日(水) 後期授業終了  
 3月12日(木) 卒論発表会  
 3月16日(月) 第61回卒業式